

## 考え続けること

成瀬中学校 岩崎 史乃

小学生のとき、友達の間論を目の当たりにしたことがあります。どちらの主張も正しく、ただ見ていることしかできなかった私は、とても悩んだ記憶があります。当事者でないに

も関わらず、心が落ち着かなかったその時間は、まさに小さな戦争でした。

今から八十余年前に始まった太平洋戦争。大きな戦争の幕を閉じたのは、5メートルにも満たない小さな原子爆弾でした。地表の温度は4,000度にも達し、およそ21万人が亡くなりました。今と同じように青く澄み渡っていた空は、一瞬で黒く染まったといいます。考えただけでも鳥肌が立ちます。

ところでこの争いは、武力以外の方法で解決することはできなかったのでしょうか。例えば、私が見た友達の間論は、お互いが歩み寄り、冷静に対話できていたら、もっと穏やかに終わらせられたはずです。それと同じように、長い時間をかけて対話し、納得のいくように終わらせるようにすれば、悲しい思いをする人や犠牲になる人がいない、とても平和的な解決ができると思います。小さな戦争も、大きな戦争も、変わりません。対話で解決できなかったら「じゃんけん」で、それでもだめだったら「くじ引き」で…。などと、とにかく武力以外の方法を考え続けることができれば、もうこれ以上負の歴史を作らない、幸せであふれる世界を作っていけるのではないかと、私は考えています。

ここまで戦争に触れ、一つの考えが生まれました。争う者は、どちらも自分が正義だと主張し、相手に押し付けます。さまざまな場面で、「平和のための正義」という言葉を聞きますが、その一方で、その正義が争いを引き起こしてしまいます。何のための正義なのか、そもそも本当の正義とは何なのか、考えれば考えるほど分からなくなります。しかし、そこで思考を止めてしまえば、平和への道筋は途絶えてしまいます。平和について考え続けること自体が、平和そのものではないでしょうか。

平和は本当に難しいことです。かつての小さな戦争でさえ私を悩ませたのですから、広い世界の平和というものは、もっと私たちを悩ませるのでしょう。難しいからこそ、悩ましいからこそ、考え抜き、まずは近くの平和から作っていくべきです。そうすればきっと、少しずつ平和に近づいていきます。

まだ見ぬ未来の子供たちに青い空を遺すために、今を生きる私たちがしなければいけないこと。それは、平和について考え、そして平和を維持するために行動し続けることなのです。